

平成22年度

病害虫情報(第6号) 9月予報

平成22年8月27日
神奈川県農業技術センター所長

I 9月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点 …… 1
 II 防除情報 ダイコンのナモグリバエ、白さび病の効果的な防除法 …… 7
 III 9月の病害虫発生予報の内容とその根拠 …… 8
 IV 9月の気象予報及び気象の経過 …… 11

農薬を使用する際は、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
 収穫期の作物が近接している場合など、個別に残留基準値の設定状況を考慮する
必要がある場合は関係機関にご相談ください。

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
 テレホンサービス TEL 0463-58-6612
 インターネット <http://www.agri-kanagawa.jp/nosoken/boujo.asp>

I 9月の主な病害虫の防除要否、発生・防除時期、防除の要点

※ [防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [発生・防除時期] ———— 発生時期 ~~~~ 多発時期 …… 感染時期 ←————→ 防除適期

*** 農薬に関する情報は、平成22年8月10日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。**

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
イネ	生育	やや早		《 登 熟 期 》				<生育調査：野菜作物研究部・キヌヒカリ>	
	ウンカ類 ビロウカ	並	△	———	———			アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [7日, 3回] 3,000倍等	・トビイロウンカについてはテレホンサービスの情報等に十分注意する。
カンキツ	生育	並		《 果 実 肥 大 期 》				<生育調査：足柄地区事務所根府川分室・普通温州>	
	黒点病	並	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	———	(予)ジマンダイセン水和剤 みかん：[30日, 4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ：[90日, 4回] 600~800倍 (予)ペンコゼブ水和剤 みかん：[30日, 4回]、みかんを除くかんきつ：[90日, 4回] 600~800倍等	・8月下旬に薬剤散布を行っていない場合は、秋雨前線が停滞する前に実施する。
	かいよう病 (中晩柑類)	やや少	○	———	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予)コサイドDF [—, —] 2,000倍 (予・治)カスミンボルドー又は銅パーシク水和剤 みかん：[7日, 5回]、みかんを除くかんきつ：[45日, 5回] 1,000倍等	・台風が予想される場合は予防散布を行う。 ・コサイド、カスミンボルドー、銅パーシクは、薬害軽減のためクレフノン[—, —]200倍を加用する。
ツ	チャノキイロ アザミウマ	並	○	~~~~~	~~~~~	———	———	テルスター水和剤 [前日, 3回] 1,000~2,000倍 ロディー乳剤 [7日, 4回] 2,000倍	・果頂部の加害に注意する。
	カメムシ類	やや少	△	———	———	———	———	アクタラ顆粒水溶剤 [14日, 3回] 2,000倍等	・園内をよく見回り、発生を確認したら防除する。

病害虫情報

(H22・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
カンキツ	ミカンハダニ ミカンサビダニ	やや多 —	○	←→		←→	~~~~~	カネマイトフロアブル [7日, 1回] 1,000~1,500倍 ダニサラバフロアブル [前日, 2回] ミカンハダニ: 1,000~2,000倍 マッチ乳剤 みかん: [14日, 3回]、みかんを除くかんきつ: [21日, 1回] ミカンサビダニ: 2,000~3,000倍 等	・果皮の食害が進まないうちに散布する。
	生育	やや遅		《 収穫期 》				<生育調査: 果樹花き研究部・豊水>	
ナシ	黒星病	やや多	○				~~~~~	(予・治)ポリベリン水和剤 [14日, 3回] 1,500倍 (予・治)ストロビードライフロアブル [前日, 3回] 黒星病: 3,000倍 うどんこ病: 2,000~3,000倍	・黒星病は9月下旬~10月上旬の降雨により、来年の芽に感染し越冬するので、この時期の防除は重要。
	うどんこ病	やや少	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予・治)オンリーワンフロアブル [前日, 3回] 黒星病: 2,000~4,000倍 うどんこ病: 2,000倍 等	・ストロビーは炭疽病(2,000倍)にも適用あり。
カキ	生育	やや遅		《 果実肥大期 》				<生育調査: 果樹花き研究部>	
	うどんこ病	やや少	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予・治)ベルコート水和剤 [14日, 3回] 1,000~1,500倍 (予・治)トリフミン水和剤 [前日, 3回] 2,000~3,000倍 等	・ベルコートは、「西村早生」では葉に葉害が生じる。
	カメムシ類	やや少	△	←→		←→		アクタラ顆粒水溶剤 [3日, 3回] 2,000倍 テルスターフロアブル [3日, 2回] 3,000倍 等	・園内をよく見回り、発生を確認したら防除する。
イチ	生育	並		《 秋芽生育期 》				<生育調査: 北相地区事務所研究課・やぶきた>	
	炭疽病	並	○		~~~~~	~~~~~	~~~~~	(予・治)インダーフロアブル [7日, 2回] 炭疽病: 5,000~8,000倍 もち病: 5,000倍	・常発地では、必ず防除する。
	もち病	やや少	○	←→				(予・治)アミスター20フロアブル [14日, 3回] 2,000倍 等	・アミスターは輪斑病、新梢枯死症(輪斑病菌による)にも適用あり。
ヤ	チャノキイロ	多	○	←→				ロディー乳剤 [7日, 1回] チャハマキ: 1,000倍 チャノキイロアザミウマ、チャノホソガ、チャノカクモソハマキ、 チャノミドリヒメコバイ: 1,000~2,000倍	
	アザミウマ								
	チャノホソガ	少	○						
	ハマキムシ類	やや多	○					カスケード乳剤 [7日, 2回]	
	チャノミドリ ヒメコバイ	やや多	○					チャノキイロアザミウマ、チャノホソガ、チャハマキ、チャノカクモソハマキ、 チャノミドリヒメコバイ: 4,000倍 等	

病害虫情報

(H22・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
促成イチゴ	炭疽病	並	○	~~~~~	~~(定植)~~	~~~~~	~~~~~	【育苗期】 (予)バイオトラスト水和剤 [育苗期～前日, -] 1,000～2,000倍 (予・治)バイコラール水和剤 [育苗期, 3回] 炭疽病: 2,500倍 (予・治)ベルコートフロアブル [育苗期, 5回] 1,000倍 ・炭疽病は、発病した株の治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。 ・バイコラールは輪斑病にも適用あり。 ・ベルコートの総使用回数は7回(育苗期5回、本ぼ2回)。 ・バイオトラストとの散布間隔 バイコラール: 7日、ベルコート: 10日 サンヨール: 7日	
	うどんこ病	-	○	————	——(定植)——	————	————	【定植後】 (予)バイオトラスト水和剤 [育苗期～前日, -] 1,000～2,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日(生育期), 2回] うどんこ病: 2,000～4,000倍 (予)サンヨール [前日, 6回] うどんこ病: 500～1,000倍等	
	アブラムシ類	やや少	○	————	——(定植)——	————	————	モスピラン粒剤 [定植時, 1回: 植穴土壌混和] 0.5～1g/株 [定植時, 1回: 株元散布] 0.5g/株 オンコル粒剤5 [定植時, 1回: 植穴土壌混和] 4kg/10a等 ・モスピラン粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内。	
	ハダニ類	-	○	————	——(定植)——	————	————	コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 プレバソフフロアブル5 [前日, 2回] ハスモンヨトウ: 2,000倍等 ・本ぼに持ち込まないよう防除を徹底する。 ・コテツはミカキイアザミマにも適用あり。	
成イチゴ	ハスモンヨトウ	やや多	○	~~~~~	~~(定植)~~	~~~~~	~~~~~	ダイアジノンSLゾル [ポット育苗時, 1回: 育苗ポット灌注] 500倍 [定植前(本圃), 1回: 全面土壌混和] 25倍等 ・育苗期の灌注が望ましい。 ・総使用回数は1回(育苗期～本ぼ)。	
	コガネムシ類 幼虫	-	△	~~~~~	~~(定植)~~	~~~~~	~~~~~		

病害虫情報

(H22・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
抑制 制 ト マ ト	葉かび病 うどんこ病	- -	△ △	~~~~~			~~~~~	(予)インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, -] 葉かび病: 500倍、うどんこ病: 500～1,000倍 (予)ハチハチ乳剤 [前日, 2回] うどんこ病: 1,000倍 (予・治)ポリオキシンAL水和剤 [前日, 3回] 葉かび病: 1,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (治)エコピタ液剤 [前日, -] うどんこ病: 100倍等	・ベルコートはすすかび病にも適用あり。
	コナジラミ類 (TYLCV) アブラムシ類	- やや少	◎ ○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] コナジラミ類: 2,000～3,000倍 モスピラン水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 ハチハチ乳剤 [前日, 2回] 1,000～2,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍等	・モスピランはアザミウマ類にも適用あり。 ・ハチハチはトマトサビダニ・ミカンキイロアザミウマ、ハチハチ類(1,000倍)にも適用あり。なお、幼苗期に使用すると薬害を生じる恐れがある。
抑制 キ ュ ウ リ	うどんこ病	-	○	~~~~~			~~~~~	(予)ダコニール1000 [前日, 8回] 1,000倍 (予)ビスダイセン水和剤 [前日, 2回] べと病、褐斑病: 600～800倍 (予)インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, -] うどんこ病: 500～1,000倍	・多湿状態で施設を閉め切ると病気が蔓延するので、午後は換気に努める。 ・ハチハチは幼苗期に使用すると薬害を生じる恐れがある。
	べと病 褐斑病	- -	○ ○	~~~~~			~~~~~	(予)ハチハチ乳剤 [前日, 2回] べと病、うどんこ病: 1,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日, 5回] うどんこ病、褐斑病: 2,000倍等	
	アザミウマ類 (MYSV) アブラムシ類 (CMV等) コナジラミ類	やや多 やや少 -	○ ○ ○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	ハチハチ乳剤 [前日, 2回] 1,000～2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 2回] ミキイロアザミウマ: 2,000倍 サンマイトフロアブル [前日, 2回] コナジラミ類、アブラムシ類: 1,000～1,500倍等	・ハチハチはウリメカにも適用あり。 ・アファームはトマトハチハチ、ウリメカ、ハモシトウにも適用あり。 ・サンマイトはうどんこ病にも適用あり。

病害虫情報

(H22・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
ナ	アザミウマ類 ミナハハチ ハチハチ	やや少 並	○ ○	~~~~~ ←→	~~~~~			アファーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 ハチハチ乳剤 [前日, 2回] 1,000~2,000倍等	・アファームはマメハチバエ、ハモンヨウ、チャホコリダニにも適用あり。 ・ハチハチはアブラムシ類、コジラミ類、マメハチバエにも適用あり。
	オオタバコガ	多	◎	~~~~~ ←→	~~~~~	~~~~~	~~~~~	アファーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000倍等	・フェニックスはハモンヨウにも適用あり。
	ハダニ類	やや多	○	~~~~~ ←→	~~~~~			コロマイト乳剤 [前日, 2回] 1,500倍 スターマイトフロアブル [前日, 1回] 2,000倍	・コロマイトはコジラミ類、マメハチバエにも適用あり。
	チャホコリダニ	並	○	~~~~~ ←→	~~~~~			ハチハチ乳剤 [前日, 2回] チャホコリダニ: 1,000~4,000倍等	
ネ	さび病	-	○		←→		~~~~~	(予)ジマンダイセン 又は ペンコゼブ水和剤 [30日, 3回] 600倍 (予・治)リドミルMZ水和剤 [30日, 3回]	・ネギの農薬散布には、固着性のよい展着剤を必ず加用する。 ・さび病は、肥料不足や窒素過多にすると発病しやすい。初発は下葉にみられやすく、発生初期から定期的に農薬散布する。
	べと病	-	○		←→		~~~~~	(予・治)オンリーワンフロアブル [14日, 3回] さび病: 1,000倍等	・ジマンダイセン、ペンコゼブは黒斑病にも適用あり。 ・オンリーワンは黒斑病にも適用あり。
ギ	ネアザミウマ	やや多	○	~~~~~ ←→	~~~~~ ←→	~~~~~	~~~~~	オンコルマイクロカプセル [14日, 1回] 1,000~2,000倍 アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [3日, 2回] 2,000倍等	・オンコルはネアザミウマにも適用あり。
	ヨウモリ	多	○	~~~~~ ←→	~~~~~ ←→	~~~~~	~~~~~	プレバソンフロアブル5 [3日, 3回] 2,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 [発生初期 (但し、前日), -] 1,000倍等	・葉身に食入されると防除しにくいので、初期防除を徹底する。 ・ゼンターリはハモンヨウ、ヨウモリ(1,000~2,000倍)にも適用あり。

病害虫情報

(H22・No. 6)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	発生・防除時期				今月の防除	防除のポイント
				9月			10月		
				上	中	下	上		
キヤベツ	べと病	—	○	(定植) ←————→	————→	————→	————→	(予) Z ボルドー [—, —] 500 倍 (予・治) リドミル M Z 水和剤 [30日, 3回] 1,000 倍 等	・土を跳ね上げる強い降雨後には薬剤散布を行う。 ・Z ボルドーは、クレフノン(100~200倍)を加用する。黒腐病、軟腐病にも適用あり。
	ハイマダラノメイガ (ダイコンシクイムシ)	やや多	○	(定植) ~~~~~	~~~~~	~~~~~	————→	【育苗期後半 又は 定植時：粒剤施用】 ハイマダラノメイガ対象 アクタラ粒剤5 [育苗期後半, 1回：株元散布] 2g/株 [定植時, 1回：植穴処理] 2g/株	・アクタラ粒剤、ダントツ粒剤の施用はそれぞれ1剤1回のみである。 ・ダントツ粒剤(育苗期後半：株元処理)は、ネアザミヤにも適用あり。
	オオタバコガ	多	○	(定植) ←————→	~~~~~	~~~~~	~~~~~	ダントツ粒剤 [育苗期後半, 1回：株元処理] 0.5g/株 [定植時, 1回：植穴処理土壌混和] 1~2g/株	
	ハスモンヨトリ	やや多	○	←————→	←————→	←————→	←————→	【定植前：セル成型育苗又はペーパーポット育苗灌注】 ハイマダラノメイガ対象 プリンスフロアブル [定植前, 1回] 100 倍 アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [定植前日~定植時, 1回] 50~100倍	・プリンス、アルバリン、スタークルの施用量は、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊あたり0.5リットル。
ダイコン	アブラムシ類 (CMV等)	やや少	○	←————→	生育初期 重点防除	————→	————→	【は種時：粒剤施用】 オンコル粒剤5 [は種時, 1回：播溝土壌混和] アブラムシ類：3kg/10a アクタラ粒剤5 [は種時, 1回：作条混和] アブラムシ類：4kg/10a	・オンコル(3~6kg/10a)はキジナミムシにも適用あり。
	ハイマダラノメイガ (ダイコンシクイムシ)	やや多	○	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	【発芽後：散布】 オルトラン水和剤 又は ジェイエース水溶剤 [14日, 2回] ダイコンシクイムシ：1,500倍 アブラムシ類：1,500~2,000倍 ハチハチ乳剤 [14日, 2回] 1,000~2,000倍 等	・オルトラン(1,500倍)はカブラハチにも適用あり。 ・ハチハチは防除情報(P7)を参照。

インターネット <http://www.agri-kanagawa.jp/nosoken/boujo.asp>
 テレフォンサービス 0463-58-6612

Ⅱ 防除情報 **ダイコンのナモグリバエ、白さび病の効果的な防除法**

ダイコン、春キャベツ、軟弱野菜等で被害が増加しているナモグリバエは防除が困難な害虫ですが、農業技術センターの試験結果から、ハチハチ乳剤を散布すると、防除効果が高いことがわかりました（表1）。さらに、本剤は、白さび病と本菌が原因のわか病に対しても防除効果があるユニークな農薬であることがわかりました（表2）。

ナモグリバエの発生初期である9月末～10月上旬に、白さび病やその他の害虫（適用病害虫参照）防除と合わせて本剤を散布することをおすすめします。なお、11月上旬に本剤を再度散布することで、ナモグリバエと白さび病を効果的に防除することができます。

表1 ダイコンのナモグリバエに対する防除効果

試験区	散布前		散布7日後		散布14日後		羽化成虫数
	マイン数	マイン数	防除価	マイン数	防除価		
ハチハチ乳剤 1000倍	10.4	12.8	74.7	14.7	82.3	0.8	
無処理	11.2	20.5		35.2		46.6	

マイン数：潜入痕＋蛹数

羽化成虫数：散布14日後に、葉をインキュベーターに入れて、羽化する成虫を数えた。

（農業技術センター三浦半島地区事務所の試験成績より抜粋）



表2 ダイコン白さび病及びわか病に対する防除効果

薬剤名	白さび病		わか病	
	発病度	防除価	発病個数/株	防除価
ハチハチ乳剤 1000倍・3回	2.0	95.7	0.0	100
ランマンフロアブル 2000倍・3回	5.0	89.3	0.0	100
無処理	46.7		0.3	

（農業技術センター農業環境研究部の試験成績より抜粋）

（参考）ハチハチ乳剤のダイコンに対する
適用病害虫

ナモグリバエ、アオムシ、コナガ、
アブラムシ類、キスジノミハムシ、
ハイマダラノメイガ、白さび病



図1 ホリバーに誘殺されたナモグリバエ成虫発生消長 (H19)

☆ハチハチ乳剤の散布回数は2回ですので、散布回数を超えないように注意してください。

病害虫情報 (H22・No.6) 神奈川県農業技術センター

Ⅲ 9月の病害虫発生予報の内容とその根拠

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
水稻 穂いもち病	少	やや少	1) 巡回調査では、穂いもち病の発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、穂いもち病の発病が見られず、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(－)
			1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 生育診断までは、草丈は平年並～やや高く、分けつ数および葉色は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
トビロウソク	少	並	1) 巡回調査では、発生が見られず平年並。(±) 2) 予察灯への飛来は、見られていない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ツマグロヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 予察灯への飛来は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
カンキツ 黒点病	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察までは、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
			1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察までは、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
カンキツ ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察までは、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
			1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察までは、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ 黒星病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察までは、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
うどんこ病	中	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察までは、発病は見られず発生は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
ブドウ べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察までは、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
カキ うどんこ病	中	やや少	1) 7月の巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察までは、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

病害虫情報

(H22・No.6)

神奈川県農業技術センター

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
果樹全般 カメムシ類	少	やや少	1) チャバネアオカメムシの誘殺数は、予察灯では平年より少なく（－）、フェロモントラップでは平年並～少ない（±）。 2) 県予察ほ（根府川）での予察灯及びフェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや多い。（＋） 3) 定点調査における、ヒノキの実（球果）上のカメムシ寄生数及び吸汁痕（口針鞘）数は平年より少ない。（－） 4) 県下全域における8月中旬のヒノキ球果吸汁痕（口針鞘）数は、移動分散目安の25を超えた場所がある。（＋） 5) ナシの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。（＋） 6) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（＋）
チャ 炭疽病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。（±） 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（±）
もち病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。（－） 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（±）
カンザワハダニ	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。（＋） 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（＋）
チャノドリヒメヨコバイ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。（＋） 2) 予察灯への飛来は、平年より多い。（＋） 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（＋）

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
チャ ハマキムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が多い。（＋） 2) 予察灯調査（山北町）では、チャハマキの誘殺数が平年より多い。（＋） 3) フェロモントラップ調査（山北町）では、誘殺数は少ない。（－） 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（＋）
チャノアザミウマ	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。（＋） 2) たたき落とし調査では、落下虫数は平年並よりやや多い。（＋） 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（＋）
チャノホソガ	少	少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。（－） 2) 予察灯調査（山北町）では、誘殺数が平年より少ない。（－） 3) フェロモントラップ調査では、誘殺数が山北町は平年より少なく（－）、相模原市緑区では平年並（±）。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（＋）
促成イチゴ 炭疽病	少	並	1) 巡回調査では、育苗期の発生は平年並。（±） 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（±）
抑制キュウリ アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、ナスでのミナミキイロアザミウマの発生は平年よりやや少ない。（－） 2) 青色粘着トラップへの誘殺数は、平年より多い。（＋） 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。（＋）

病害虫情報

(H22・No.6)

神奈川県農業技術センター

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
露地ナス ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生は平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
チャノコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
アザミウマ類 シキイロアザミウマ シロキイロアザミウマ	少 少	やや少 並	1) 巡回調査では、シキイロアザミウマの発生は平年よりやや少なく(－)、シロキイロアザミウマの発生は平年並(±)。 2) 青色粘着トラップへの誘殺数は、シキイロアザミウマは平年より多く(+)、シロキイロアザミウマは平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
キャベツ ハイマダラノメイガ	－	やや多	1) 巡回調査では、発生は平年並。(±) 2) 県予察ほ(平塚)の誘致植物(クレオメ)への寄生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
コナガ	－	やや少	1) フェロモントラップでの誘殺数は、三浦では平年並(±)、横浜では平年より少ない(－)。 2) 県予察ほ(平塚)のフェロモントラップでの誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ネギ ネギアザミウマ	多	やや多	1) 巡回調査では、発生は平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
シロイチモジヨトウ	－	多	1) フェロモントラップでの誘殺数は、三浦、横浜とも平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

作物名 病害虫名	発生量		予報の根拠
	程度	平年比	
野菜全般 アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生がナスでは平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほの黄色水盤への誘殺数は平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ハスモンヨトウ	－	やや多	1) フェロモントラップでの誘殺数は、三浦、横浜とも平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(平塚)のフェロモントラップでの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップ(防除員調査)での誘殺数は、藤沢、海老名、相模原では平年よりやや多い。(+) 4) 巡回調査では、ナスへの寄生は平年よりやや多い。(+) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
オオタバコガ	－	多	1) フェロモントラップでの誘殺数は、三浦、横浜では平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(平塚)のフェロモントラップでの誘殺数は、平年よりやや多い。(+) 3) フェロモントラップ(防除員調査)での誘殺数は、藤沢、相模原で平年よりやや多い。(+) 4) 巡回調査では、ナスへの寄生は平年より多い。(+) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

(注)「発生量」の表示… 程度：甚>多>中>少>無
平年比：多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…… (+)：多発要因 (－)：少発要因

Ⅳ 9月の気象予報 (気象庁 地球環境・海洋部8月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。残暑が厳しい見込みです。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	40%	50%
降 水 量	30%	40%	30%

〈気象の経過〉 [観測地 横浜地方気象台]

8月第5半旬まで

気温は、1～5半旬まで平年より高かった。

降水量は、1、3～5半旬は平年より少なく、2半旬は平年より多かった。

日照時間は、1、4～5半旬は平年より多く、2半旬は平年並、3半旬は平年より少なかった。

